

いくせい し えん じ ぎょう みらいアスリート育成支援事業



～「みらいアスリートディレクター」が各学校に出向きアスリート発掘を実施～

2027年に長野県で開催予定の全国障害者スポーツ大会に向けて、地域に埋もれている才能あるアスリートを発掘・育成すると同時に、競技団体の支援を行うことを目的として、今年度新たに「みらいアスリートディレクター」として荻野ディレクターが着任しました。

ディレクターは、障がい者スポーツ指導員や総合型地域スポーツクラブ指導員等と一緒に特別支援学校等に出向いて、パラスポーツ体験会等を開催し、パラスポーツに興味や意欲、潜在力を持った子どもを発掘します。

発掘した「みらいアスリート」の方には、障がい者スポーツ地域コーディネーターの加藤コーディネーターと連携し、競技レベル向上に向けた情報提供や指導者とのマッチング、競技団体への紹介等により活動の場を提供していきます。

パラリンピックが来年に延期となり、県・地区の障がい者スポーツ大会も中止になってしまい、スポーツをする機会、観戦する機会が減り、スポーツを身近に感じる機会が少なくなりましたが、皆さまのご指導、ご協力をいただきながら少しでもパラスポーツへの関心を高めてもらえるような活動につなげていきたいと思えます。



皆さまの身近に…

- ・パラスポーツに興味を持っている！
- ・スポーツをやりたいけれどどこに相談すればいいかわからない！
- ・パラスポーツって一体何だろう？

という方がいらっしゃれば、**ぜひ「みらいアスリートディレクター」にご連絡をお願いします。**

未来のアスリートが身近に眠っているかもしれません…



◆みらいアスリートディレクター

荻野 孝志 (おぎの たかし)

▶▶▶▶▶ 長野県体育センター（松本市）を拠点に活動

主な経歴

長野県立高校教諭として県下各地の高校等に勤務
県体育センター次長及び県立高校教頭を歴任
(公財) 長野県スポーツ協会クラブアドバイザーとして勤務

免許・資格

中学校・高等学校保健体育教諭第一種免許
日本スポーツ協会公認アシスタントマネージャー

連絡先

Tel ▶080-5145-8408 E-mail ▶nagano.had@gmail.com

1 目的

2027年に本県で開催予定の全国障害者スポーツ大会（全障スポ）で、本県選手が活躍するために、選手発掘及び競技力向上は急務であり、大きな課題である。

現時点では、団体競技の7競技では過去3年間、ブロック予選敗退となっており全障スポには出場できておらず、本県選手の競技力は高いとは言えない。

選手の競技力を向上させ、長野県選手が2027年の全障スポで好成績を残すためには、地域に埋もれている才能あるアスリートの発掘・育成を行う必要がある。

同時に、競技団体の活動強化により競技環境の整備を図っていく必要がある。

■全障スポの団体競技における長野県の出場状況

団体競技種目	障がい	2014	2015	2016	2017	2018	2019	競技団体
バスケットボール	知的	○	○	○	×	×	×	
車いすバスケット	身体	×	×	×	×	×	×	
ソフトボール	知的	×	×	×	×	×	×	未設立
グランドソフトボール	身体	×	×	×	×	×	×	未設立
フットベースボール	知的	×	×	×	×	×	×	
バレーボール	身体 知的 精神	×	×	×	×	×	×	未設立
サッカー	知的	×	×	×	×	×	×	未設立

■2018年全障スポ 福井大会

長野県選手団 78名（選手 45名、役員 33名）

開催県 福井県選手団 448名（選手 280名、役員 168名）

大会開催県は参加選手枠が大幅に拡大される。選手の出場機会が増えると同時に、**開催県としてふさわしい競技力**が求められる。

2 事業主体 （公財）長野県障がい者スポーツ協会

3 内容

(1) 概要

障がい者スポーツに精通した「みらいアスリートディレクター」を設置し、「みらいアスリート」の発掘、スポーツを継続するための支援、競技団体への支援を行う。

ディレクターは特別支援学校等へ出向いてパラスポーツの体験会等を開催し、パラスポーツ活動に興味がある、意欲、潜在力のある子どもを発掘する。

発掘した「みらいアスリート」に対しては、ディレクターは引き続き、既存の障がい者スポーツ地域コーディネーターと連携しながら、さらなる競技レベル向上に向けた情報提供や指導者とのマッチング、競技団体への紹介などによる活動の場を提供する。これにより、県内競技人口の増加、選手の競技レベルの向上、未設立競技団体の新たな立ち上げ、既存団体の活性化、ひいては全障スポ長野県大会での本県選手の活躍に繋げていく。

(2) みらいアスリートディレクターの設置

①特別支援学校を拠点として活動

県内で幅広く活動するため、（公財）長野県障がい者スポーツ協会の職員として、松本市の体育センターを拠点に活動を行う。

②人材イメージ

障がい特性、障がい者目線のパラスポーツの楽しみ方を理解し、パラスポーツの普及に適した人材。

例：特別支援学校教諭OBなどの、障がい特性に対する理解があり、パラスポーツ指導の経験がある者。

(3) みらいアスリートディレクターの活動内容

①パラスポーツ体験会の実施【アスリートの発掘】

特別支援学校や一般学校等の課外授業としてパラスポーツの体験会を実施し、子どもにパラスポーツに興味を持ってもらうきっかけづくりを行う。

ディレクターは、障がい者スポーツ指導員や競技団体などの人物と合同で体験会に出向き、体験会の場でも的確な情報提供をしながらアスリートを発掘していく。

②地域コーディネーターや競技団体への橋渡し【アスリートへの支援】

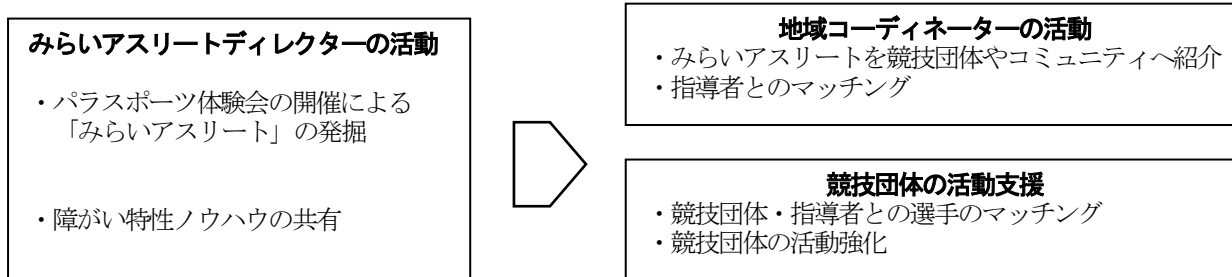
体験会でパラスポーツに興味を持った子ども達を、学校がディレクターへ紹介。ディレクターはそれを受け子ども達の情報を障がい者スポーツ地域コーディネーターへ提供する。

地域コーディネーターは競技団体や指導者とのコネクションを活用し、発掘した子どもが競技活動をする場や指導者を紹介し、それらにより子どもが継続して競技に携わるとともに、競技人口の増加と、競技力向上の支援にも繋げていく。

選手が所属する競技団体の活性化や新規設立、学校ごと、地域ごとのチーム結成や取組が自発的に発生し、地域にパラスポーツ文化を根付かせる。

③選手と競技団体を繋げる【競技団体への支援】

競技ノウハウを持つ一般スポーツ競技団体と障がい特性やパラスポーツのノウハウを持つディレクターが連携し、全障スポへ向けた競技団体の支援を行う。



地域コーディネーターのコネクションを活用して競技チームや指導者への橋渡しを行うことにより、継続して競技活動を行える機会を提供する。

(4) 競技用具の整備

体験会等の実施にあたっては、複数のパラスポーツ体験を提供するために競技用具を新たに購入する。

競技用具がないとスポーツができないが、現状では車椅子バスケットボールに代表されるように、競技用具が身近にないことから、地域で気軽に体験会を実施することができない。

競技用具を一定程度用意することにより、体験会等の開催により障がい者スポーツの競技人口の増加につなげていく。

整備する競技用具

	競技名	競技用具
団体 競 技	車いすバスケットボール	競技用車椅子
	グラウンドソフトボール	ボール、バット
	フットベースボール	ボール、ベース
	ゴールボール	ゴールボール、アイマスク
個 人	ボッチャ	ボッチャボール、ランプ
	フライングディスク	ディスク